

特集 陰圧閉鎖療法による治療とケアの基本

間欠洗浄療法を伴う陰圧閉鎖療法の実際

川野啓成¹⁾，上村哲司²⁾

1) 佐賀大学大学院 医学系研究科 博士課程 医科学専攻 臨床医学コース 形成外科
2) 佐賀大学医学部附属病院 形成外科 診療教授

- Point**
- ▶ NPWTi-d の特徴を知る
 - ▶ NPWT と NPWTi-d の適応の差を理解する
 - ▶ 実際の処置面の注意事項を知り，装置を適切に操作しトラブルに対応できる
 - ▶ 保険請求について知る

はじめに

間欠洗浄療法を伴う陰圧閉鎖療法 (negative pressure wound therapy with instillation and dwelling ; NPWTi-d) は，洗浄液の周期的自動注入機能により，創面の環境調整，創の清浄化を行い，管理された陰圧を付加し，創の保護，肉芽形成の促進，滲出液と感染性老廃物の除去を図り，創傷治癒を促進することを目的として使用します¹⁾。本章では，その特徴や，従来の陰圧閉鎖療法 (negative pressure wound therapy ; NPWT) との適応の差，実際の処置面での注意事項や保険請求について述べたいと思います。

癒を促進することを目的として使用します¹⁾。本章では，その特徴や，従来の陰圧閉鎖療法 (negative pressure wound therapy ; NPWT) との適応の差，実際の処置面での注意事項や保険請求について述べたいと思います。

NPWTi-d の特徴

NPWTi-d は，洗浄液の周期的自動注入機能により，創面の環境調整，創の清浄化を行い，管理された陰圧を付加することによって，創の保護，肉芽形成の促進，滲出液と感染性老廃物の除去を行うことで，創傷治癒を促進します。

芽形成の促進，滲出液と感染性老廃物の除去を行うことで，創傷治癒を促進します。手技としてはまず，創傷に洗浄専用の多孔性

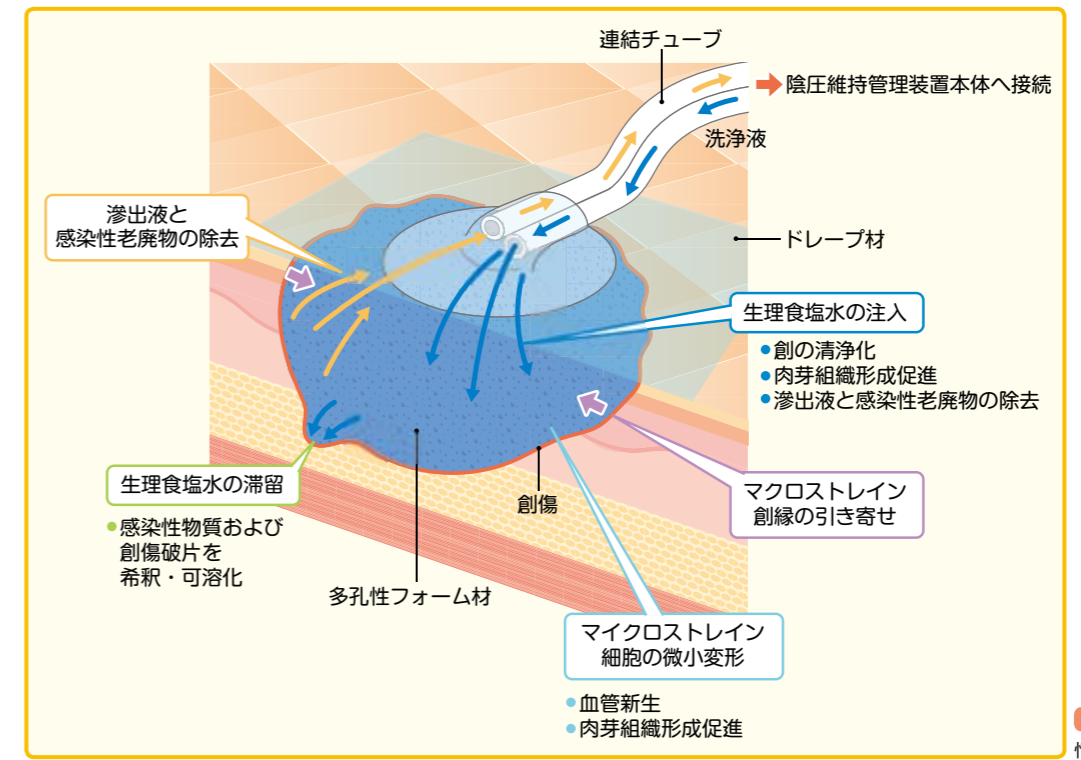


図1 NPWTi-dの概要 情報提供：ケーシーアイ

フォーム材を充填し，それを被覆，密閉するドレープ材を貼付します。次に，ドレープ上に孔を作成し，連結チューブのパッドを貼付して本体と接続します。その後，洗浄液の注入量，洗浄液の浸漬時間，陰圧閉鎖療法の陰圧と陰圧時間を設定し，治療を開始します。すると，設定された洗浄液の注入が開始され，フォーム材が浸漬されます。設定された浸漬時間に達すると，陰圧閉鎖療法が開始され，洗浄液の回収と創部への陰圧が付加されます。その後，設定された陰圧時間が終了すると再び洗浄液が注入され，以降，ドレーピングの交

換まで上記が繰り返し行われます (図1)。ドレーピングの交換は，通常のNPWTと同様に，2～3日に1回程度行う必要があります。適応疾患は，既存のNPWT治療で奏功しない，あるいは奏功しないと考えられる難治性潰瘍であり，具体的には，褥瘡，末梢動脈疾患，糖尿病性足潰瘍，胸骨髄炎，外傷，術後離開創，四肢切断端開放創，デブリードマン後皮膚欠損創などです¹⁾。使用禁忌としては，既存項目に加え，フォーム材が，主要な露出血管や吻合部，臓器，神経に直接接触する場合があります¹⁾。

NPWT との適応の差

従来のNPWTは創部を密閉し，湿潤閉鎖環境に保つ治療であるため，その開始にあたり感染コントロールが十分に得られていることが必要であ

り，感染創に対しては慎重使用が求められます。NPWT開始後には細菌数が増加しているとの報告も認められています²⁾。